

## 阿蘇くじゅう国立公園指定時における観光からみた評価

○町田 怜子 [東京農業大学地域環境科学部造園科学科]

キーワード：観光 国立公園 草原

### 1. はじめに

阿蘇くじゅう国立公園は、世界最大級のカルデラ壁上部に広がる起伏の富んだ草原景観と、中央火口丘に広がる火山特有の景観が評価され、昭和9年(1934)に国立公園に指定された。現在、阿蘇地域の年間入込数は約1千万人を越え、草原景観は地域を支える観光資源となっている。しかし、近年、阿蘇地域では、畜産業の低迷や地域住民の高齢化に伴い、野焼き等による草原の維持管理を継続することが難しくなり、荒地化や植林などによる景観価値の低下が顕著になってきた。そのため景観保全の面からは、野焼きボランティアによる保全活動や、自然再生推進法による草原再生が推進されている。

観光やレジャー・レクリエーションの観点からは、従来、国立公園指定時には、自然風景美と同時に、観光利用としての可能性が評価されていたと考えられる。従って、阿蘇くじゅう国立公園の指定時における観光的価値を把握することは、阿蘇地域の観光や地域づくりの位置づけを検討する上で重要な資料になる。当国立公園の指定時に関する既往研究では、国立公園の指定時の経緯の中で観光登山の活用<sup>1)</sup>が明らかとなっている。しかし、国立公園指定時に、阿蘇地域の景観が観光面からどのように評価されていたのかは、十分に明らかとはなっていない。そこで、本研究では、阿蘇くじゅう国立公園指定時に期待されていた観光の価値を検証し、今後の阿蘇地域における国立公園としての観光の役割、位置づけを考察する。

### 2. 研究の方法

文献調査として、阿蘇くじゅう国立公園の指定時に関する記載を旧国立公園雑誌や、阿蘇地域に関する書籍から情報収集した。

### 3. 研究及び考察

#### 1) 国立公園候補地としての阿蘇の評価

大正に入り、田村剛氏を中心に、アメリカの国立公園にならい世界に誇れる日本の風景(自然美)を選定し、これを観光業として利用し国の経済活性化を図ることが提案されていた。一方で、上原は、利用本位の「国立公園」も必要だがそれは「国民公園」として対処し、国立公園はむしろ天然保護区域である<sup>2)</sup>と主張していた。しかし、全国で地域経済の要として熱烈な国立公園誘致運動が展開され、阿蘇地域は世界最大のカルデラが日本の火山を代表する自然風景美として、国立公園候補地の一つにあげられた。昭和4年(1929年)の国立公園候補地の調査では、辻村氏が、「火山は日本の至所に分布して世界的に有名である。日本の火山の風景は代表的な景色である。阿蘇火山の大カルデラに至っては富士と共に世界に誇って大規模な火山地形である<sup>3)</sup>。」と評価している。

#### 2) 国立公園指定時における観光からみた評価

国立公園設立の条件として、自然風景美と同時に、国立公園における遊覧系統の整備として、道路などのインフラの整備が挙げられていた<sup>4)</sup>。阿蘇地域では、阿蘇山と温泉を結んで、九州アルプスから那馬溪、別府と一つの遊覧系統をなすインフラ整備が進められた。

そして、田村氏らは、「阿蘇山には山上温泉が少なく、且つ水と森林がなくて滞在に快くない。平坦地は広くて施設に適する。山頂まで自動車もあげられる<sup>5)</sup>。」とし、国立公園指定時から、道路等のインフラ整備による観光計画が検討されていたことが明らかとなった。昭和6年(1931)に大阿蘇国立公園設定二関する建議案が提出され、昭和8年(1933)阿蘇登山道路が完成し昭和9年(1934)に阿蘇国立公園が誕生した。

### 3) 多様な阿蘇の景観に対する評価

阿蘇の草原景観に関する記述を概観すると、昭和5年(1930)に中越氏が「往生岳、杵島岳の山腹に見られる風景が面白く、杵島岳や米塚の円錐地形等のその風景を構成している要素が第一非常に面白い」として、中央火口丘に位置する滑らかな山腹斜面の草原景観について評価していた。加えて、「南郷谷の上色見から奥はカルデラ壁が細かく出入りし、下部の崖は茅場となり、刈り取られた茅が稲叢のやうに規則正しく列をなしている風景に対し、他に見られぬ面白味がある」とし、「かく阿蘇の風景は大きな荒削りなものやうに一般から思はれて居るやうであるが決してさようではない、細部に於いても変化に富んで居るのである<sup>6)</sup>。」とし、阿蘇地域のダイナミックな火山地形だけでなく、カルデラ壁から続く茅場等の土地利用も評価されていることが明らかとなった。その他、昭和7年(1932)阿蘇国立公園候補地報告では、「外輪山の外方に廣大なる裾野を展開し殊に東部裾野は波野ヶ原と呼ばれる丘陵の起伏せしめ遠く久住に連なり、その驚異的景観は外輪山と共に世界の雄大さを誇るものである<sup>7)</sup>。」と、波野の景観について記されていた。このように、カルデラ地形だけでなく、中央火口丘の滑らかな草原景観や波野の草原景観、そして、南阿蘇地域のカルデラ壁から草原まで一体となる土地利用が評価されていたことが明らかとなった。

### 4. まとめ

阿蘇地域では、草原景観を享受する方法として、国立公園指定準備の段階から、観光道路等による利用が重要視されていたことが明らかとなった。また、火山地形だけでなく、南阿蘇地域のようなカルデラ壁と一体となった多様な土地利用も評価されていることが明らかとなった。今後の課題としては、国立公園指定時と現在では、観光道路としての沿道景観の質が大きく変容していると考えられる。国立公園指定時における沿道景観の観光的な位置づけを踏まえた上で、今後の沿道景観における景観管理や観光利用のあり方を検討することが重要である。

### 参考文献

- 1) 黒田乃生(2012):阿蘇山の国立公園指定の経緯と観光登山の変遷:ランドスケープ研究(オンライン論文集),
- 2) 上原敬二(1931):旧国立公園第2巻 5
- 3) 辻村太郎(1939):火山公園,昭和4年国立公園第5巻 6
- 4) 田村剛(1939):国立公園の条件よりみたる候補地大観,旧国立公園第3巻 7
- 5) 田村剛(1940):国立公園と遊覧検討,国立公園第6巻 2
- 6) 中越延豊(1940):国立公園候補地阿蘇概観,旧国立公園第2巻 5
- 7) 内務省(1942)内務省特別委員長報告,旧国立公園第3巻 1